

第4章 まとめと今後の進め方

「浦安市の望ましい公共交通体系」の実現に向けて、新たな公共交通システムの導入と既存バス路線の強化という2つの観点から検討を行ってきた結果をまとめ、その実現に向けた今後の進め方を整理する。

(1) まとめ

浦安市では、既に一定水準以上のネットワークと運行サービスを確保したバスが運行されており、市民の日常生活に重要な交通手段となっている。市民アンケート調査によれば、一部の項目と地域で不満度が高いが、全体としては一定の満足が得られていると思われる。

しかし、今後の少子高齢社会の進展や地域の社会活動などに参加する市民が増える中で、通勤・通学時の大量のバス交通需要への対応だけでなく、多様な目的に対応した移動手段の確保や、市民のライフスタイルの変化に対応して、公共交通に対する期待が高まってきており、さらなる高度化が望まれている。

このため、本調査では、将来に向けた望ましい公共交通体系を実現するため、LRT・BRTの新たな公共交通システムの導入と既存バス路線の強化の2つの観点から、ネットワーク整備の実現性などについて検討を行ってきた。

LRTは、環境にやさしくシンボル性の高いシステムのため、将来のまちづくりに貢献できるシステムと考えられるが、導入空間となる道路の拡幅整備や車両基地の確保などのハードな施設整備や事業採算性等、多くの課題を将来に向けて解決していく必要がある。

また、BRTは、整備費用が小さくなるとともに、道路の整備状況に合わせて柔軟に対応することができるなど、導入可能性は高いと考えられるが、整備費用の確保や継続した事業採算の確保などの課題解決が必要である。

このように、新たな公共交通システムの導入には、まちづくりとも連携して中長期的な観点からの取組みが必要であり、当面（短期）は、充実したネットワークを有するバス路線の強化を図ることが重要である。

バス路線の強化方策については、市民ニーズの変化や価値観の多様化などに対応して、本調査で掲げた11施策（P.92参照）を、実施効果などを考慮しながら、段階的に実施していくものとする。

(2) 今後の進め方

今後は本調査のまとめを踏まえ、将来の公共交通体系の実現に向けて、以下のような取組みを進める必要がある。

中長期を見据えた段階的な取組み

中長期に向けて、新たな公共交通システムの導入を実現していくためには、まちづくりと一体となった交通環境の整備、自動車から公共交通への転換などの施策を総合的かつ戦略的に取組むことが重要である。このような中長期的な方向性を見据えた上で、行政とバス事業者が連携しながら、実現可能な施策から段階的に実施していく。

バス交通の総合的施策の展開

現状において一定以上のバスネットワークが形成されていることから、短期としては、既存ネットワークを活用した上で、より利便性の高いバス交通の実現を目指す。

このため、これらを上手く活用するためのモビリティ・マネジメントや交通需要マネジメントの実施、運賃施策、カーシェアリングの導入、さらには市民の移動目的にきめ細かく対応する循環型等のネットワークの形成など総合的に施策を展開していく。

社会実験の実施の検討

新たな公共交通システムは、様々な課題を抱えているが、シンボルロードへの導入は、やなぎ通り、宮前通り及び大三角線など他路線と比較すると、導入空間や一般自動車への影響に関する課題は少なく、空間確保の面では、比較的实现可能性の高い区間と言える。

このため、社会実験としてシンボルロードに一定期間システムを導入し、潜在需要の確認や導入上の課題を抽出するなど、実現に向けた実践的な取組みを行うことの検討が必要である。

施策の段階的な取組み方針

